

令和6年度 第3回学校運営協議会議事録

【日時:場所】

令和7年2月27日(木) 15:00~17:00 運営協議会

14:45~ 高等部 1階にて廊下改修についての説明

15:00~ 運営協議会 新館1F 会議室 ◇開会前に会議室にて改修工事の動画を鑑賞(~15:10)

【出席者】

<学校協議会委員>

- ・中瀬 浩一(同志社大学 免許資格課程センター 教授)
- ・良原 恵子(大阪府臨床心理士会 副会長)
- ・前田 浩(大阪ろう難聴就労支援センター 理事長・センター長兼務)
- ・那須 元樹(OSP ハートフル株式会社 代表取締役社長)
- ・堀井 麻記(本校 PTA 会長)

1. 開会

2. 学校長挨拶

3. 議事

【議事①】令和6年度 学校教育自己診断について 教頭より説明

<委員からの主な意見・質問及び回答>

◇内容のことではないが、子どもたちの回答のまとめで中高を一緒に集計しているが、中と高の状況や環境は全く違うので、一緒にすることはむずかしいのではないか。

→今までのアンケート方法の流れを取り入れてはいるが、中高については今回のご意見を受け止めて来年度参考にさせていただきたい。

◇4p いじめについて「まったくあてはまらない」は答えたこどもの意思を感じる。この回答については学年に集中しているのかどうか。

→学年にはバラつきがあった。分析をするとほかの項目でも「まったくあてはまらない」と答えている傾向があった。

◇それについては学校全体への不安を抱えている可能性があるため、対応を考える必要があると思う。

→前回の那須委員からもあったが、アンケートに答えるという点で工夫が必要な面も併せて考えていきたい。

◇先生方の回答率が57%であることについて。子ども、保護者も集めている中で教員の回答率が一番悪いというのはどのような対応をとったのか。

→回答への呼びかけをくり返すことまではしていない。回答率をみて現状の把握と校長としての振り返りにつなげたいと思っているのでこの対応をとった。ストレスチェックなど他のアンケートでは高い提出率もあったので、アンケートの取り方などにも工夫が必要かと感じる。

◇こども、保護者、学校での回答のずれがあった場合、原因を探ることが大事で、回答率が低いというのは分析もできないと考えられる。

→先生方の43%が回答していない理由を探る必要があるのでは。(出したくない、出しても意味がない、など)

【議事②】令和6年度 学校経営計画及び学校評価(案)(最終報告について 校長より説明

議事の中で幼稚部と中学部部主事より交流活動の報告、小学部部主事より学習会の報告を行った。

<委員からの主な意見・質問及び回答>

◇特例子会社で障がいのある方を雇っているが、特例子会社ではない会社でもみんなが働ける環境をめざしている。皆さんお互いをしらないから不安があり、交流することによる気づきが環境の改善につながる。

評価について、防災のところに△がある。訓練での保護者への連絡が2回を予定し1回になった背景はあるのか。

→避難訓練を3回行ったが、その中の1つの訓練で保護者への連絡を行った。まずはさくら連絡網をつかっている安否確認を実施したが、今回は保護者に報告を送って確認していただくまでを1回行った。回数が1回となったのは管理職が対応できなかったためである。

◇さくら連絡網を使つての連絡とあるがこれは導入して長いのか

→数年前に導入して保護者、学校間の連絡ツールとして使っているが、南海トラフに対する注意喚起で昨年度教員に対しての安否確認を実施し、その流れとして災害時の保護者への連絡を今年度の訓練として行った。

◇◎や○などの評価指標はどのようになっているのか。

→○や◎などの判断は今後教育庁と判断して変わる点もあるが、予定よりもがんばったところは◎にしている。

◇薬物乱用防止の研修はどのような内容のものを実施したのか。

→聴覚障がいのある子どもたちなので、薬物への注意喚起の観点だけではなく、ロールモデルとして講師を招き実施した。

◇薬の正しい使い方については薬剤師の方がよいかと思うが、薬物乱用の内容も薬剤師の方がされたのか。

→きこえない薬剤師の方にしていただき、オーバードーズ等の話をしていただいた。

◇最近オーバードーズが増えている。身近に誰でもが買える市販薬の危険性を話していただくことが大事。本当に誰でも買える状況である。

◇学習について伺いたい。自己診断で、わかる授業をやっているかどうか、のところでは高い評価になっているが、ただ見てわかる授業(ICT)と中身がわかることとは違う。概念とかがわかるなど、それについての記述がない。エビデンスがないので、話を伺いたい。

→教科以外の活動で力をつける活動を意識的にしている。生きていくうえで必要な力の獲得については自立活動での活動が大事になる。自分のことを説明する力など、必要であり獲得をめざしているが、はっきりとした評価指標はないので、今後の課題である。

◇例えば学習成果の数的評価が全くないのはどうか。評価のエビデンスが見あたらない。アチーブメントテストなり公開模試なり実施して評価材料としてそれらを取り入れているのか。

→英検は取り入れている。少し前は英語の学習が厳しく感じる状況だったが、今は試験を受ける生徒も増え、合格する生徒もいる。公開模試について、受験は個人の判断になる。

◇障がいの対応などには積極的に取り組んでいるが、学習面ではどのように取り組んでいるのか気になっている。

◇全国学力テストは受けているのか。また問題と解答による分析はしているか。

→対象生徒は受けて、自身のふり返りに活用することになっている。学校として分析するところまではいたっていない。受けている生徒が少ないということもあり、難しい面もある。

◇次年度からはそのような点でも分析してもらえたら。この学校(聴覚支援学校として)の特徴もあると思うので活かせるのではないかと感じた。

◇グランドデザインの評価 自己評価について、ここの中で初めて行ったのは何か？なぜならこのテーマでは毎年同じ内容になる。ほかの学校でもやっている内容になっている。次年度も同じ内容であれば、何をやっていたのか、となる。評価して分析、問題点は何なのか、改善点は何なのか、が大事。この文章であればそれが見えてこない。聾学校では当たり前のことをあえて掲げる状況はなになのか。本日の報告でよかったものもあるのでその内容がわかるような評価になればよいと思う。もっと具体的に子どもたちの様子がわかる表記になればよいと思う。

◇自己評価のところに書かれている内容は、やっていることを書いているが、課題などを出し合って話あう進め方にすれば意味があると思う。

→令和7年度の計画の参考にさせていただく。

【議事③】令和7年度 学校経営計画及び学校評価(案)について校長より説明

<委員からの主な意見・質問及び回答>

◇中期的目標は毎年変わるのか。来年から3年間の活動ではないのか。

→計画の策定年度から3年間の見直しとして設定している。数年間継続していることになる場合もある。

◇高等部の生徒たちはグランドデザインを見てできることは何か？と考えて活動した内容を発表していたので教員だけでなく、生徒たちも取り組みを理解して進んでいることを実感した。

<高等部の校則について高等部主事から変更点を説明>

◇高等部生徒会の選挙を見学したときに、その時の会長立候補者が校則を変えるという話をしていたので変わったのだということがわかった。

<全体を通して委員からの主な意見・質問及び回答>

◇高等部の進路が学校の中だけを見たときに最後の成果となる。一貫校で、どのような力をつけてどの進路に進むのか、というのがわかるのは強みであるので積極的に校内でもアピールをしてほしい。

総合的な探究の時間について、他の聾学校で報告をうかがったことがあった。中央の取り組みを今後ぜひ聞きたい。

大学の選抜の中のテーマで探究を取り入れている。大学に進学をめざす生徒がこれからもいると思う中で、学力だけでなく探究という力をつける必要がある。中央も考えて取り組んでほしい。

◇一貫教育をめざす学校にあっては、例えば幼稚部の先生が保護者から他学部の質問があれば、その学部の特色や方針を説明できるかどうか、逆にろうの子をもつ卒業生が教育相談に来られた時に、高等部の先生が幼稚部の大切さを丁寧に説明できるかどうか、が大事。そのような全校的な共通理解ができているか。簡単ではないが、そうした認識を広げるよう、管理職の先生方に考えていただきたい。

→探究については首席を中心に計画を立てて取り組んでいる。

他学部のことについては、昨年度から取り組んでいる学部を超えたミーティングのような教員間の交流が大事ななと感じているので、今後も続けていきたい。時間の都合でいじめ防止対策方針については省く形になったが良原委員の意見も盛り込み進めていきたい。(後日、良原委員より質問と助言をいただく)

◆議事①②③について承認された

4. 事務局より

5. 閉会(校長より)